

モデルプログラム B-1 外国人児童生徒等教育の背景・現状・施策 ー外国人児童生徒数と地域・学校による在籍状況の違いー

ねらい	文部科学省の調査資料などから、国内の小中高等学校・特別支援学校に在籍する外国人児童生徒等の数を把握すると同時に、地域や学校によって、その在籍状況に大きな違いがあることを知り、状況に応じて体制をつくり、教育・支援を行うことの重要性を理解する。
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 現職一般教員 <input checked="" type="checkbox"/> 管理職 <input checked="" type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input checked="" type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	B 外国人児童生徒等教育の背景・現状・施策
活動形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 「外国人児童生徒等」の数の推移を知る。（15分） ・外国人児童生徒等の現状と背景（B） 2. 外国人児童生徒等在籍の地域的特性を知る。（20分） ・地域特性（B） 3. 当該自治体の受入れ状況について知る。（20分） ・外国人児童生徒等の現状と背景（B） ・地域特性（B）	1. 文科省、法務省の統計資料から「外国人児童生徒等」の数の推移を知る ・出入国管理および難民認定法の改正と在留外国人の入国との関係 ・法務省の在留外国人統計から学齢の外国籍の子どもの数 ・「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（文科省）」からその数の推移、母語、在籍校の状況、居住する都道府県・市町村の特徴 2. 上記文科省調査から外国人児童生徒等の在籍状況の地域間の違いを知る。 1) 文科省統計の都道府県別・市町村別の児童生徒数を調べ、偏り（「集住」「散在」）が大きいことを確認する。 2) 母語別の児童生徒数から、エスニックコミュニティの存在や外国人住民の来日に関わる歴史的背景を知る。 3) 都道府県別・母語別の児童生徒数から、その地域の歴史的、経済的特徴との関係を知る。 4) 在籍する「日本語指導が必要が児童生徒」の数には、大きな違いがあることを知る。（少数在籍校・多数在籍校、その地域的特徴） 3. 自身の出身地や、学校の所在地の自治体（〇〇市／県）における外国人児童生徒の受け入れ状況について情報交換をする。 1) 居住する地域に関して話し合う ・外国人児童生徒がどのぐらいいるか。 ・子どもたちの来日の理由や何か、また、将来はどこで生活するのか。 ・同じ言語・文化背景のコミュニティがあるか、あるとして、コミュニティとしてどのような関係を築き、どのような活動をしているか。 2) 所属する学校に関して話し合う ・外国籍児童生徒等がどのぐらい在籍しているか。 ・教育委員会や学校には、どのような受け入れ体制があるか。 ・学校に通っていない外国人児童生徒等（不就学の）はいないか。 ◇学生の場合は、自治体の外国人住民に関する統計資料、自治体が発行している「受け入れの手引き（自治体によって名称は異なる）」の読み取り活動として、上記の話し合いを行う。

<p>4. 地域・学校による状況に応じた教育・支援の重要性について確認する。(5分)</p>	<p>4. この授業を振り返り、地域・学校による状況の違いを考慮して外国人児童生徒等教育を実施することの重要性を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内の外国人児童生徒等の在籍状況とその地域間の違い ・地域・学校による受け入れ状況の違い ・上記の状況に応じた体制や教育・支援を行うことの重要性
<p>備考</p>	<p>1の国と、2の自治体の受け入れ状況は基本的な情報であり重要である。どのような内容の授業・研修を行う場合にも、コンパクトでかまわないので最新の情報で確認する。</p>